

リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2023年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務			協力会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋株		
工期	令和5年4月1日 ~ 令和5年3月31日			作成者	中島 強太		
作業名称	案内・警戒標識取替工		作業手順書	作成年月日	令和3年10月14日		
使用機械 使用設備 (具体的な名称・ クラスを記す)	トラッククレーン(4tベース車・2.9t吊り)、2tトラック			協力会社店社確認	自筆サイン		
使用工具 機器 (大きさ等又は具 体的な寸法を記 す)	ボルト締付工具、インパクトドライバー、パール、スコップ、測量器、ほうき			元請確認	自筆サイン		
保護具	ヘルメット、安全靴、脚絆、安全チョッキ、手袋、安全帯			作業順序	1	準備作業	
免許・資格等 (免)(技)(特)(準特) の区別を記す	・移動式クレーン運転教育 振動工具取扱・小型移動式クレーン				2	基礎据付け部 掘削・余剰掘り	
					3	基礎据付け	
作業人員 (当作業に関わる役 割と人員を全て記 す)	職長 1人、作業責任者 2人、ユニックオペ 1人、 合計 4名				4	基礎埋め戻し	
作業手順 周知会 参加者 サイン (記録)	作業責任者(職長)		周知会実施日		令和3年10月15日	5	支柱建柱
	(役割を確認してこの作業に関わる 全員が自筆サインする)					6	ガードパイプ設置
					7	後片付け	

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可能性	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○△	○×	○○	1:極めて小さい	関係者に対策の周知
	△:時々発生する (1年に1回程度)	△△	△×	○△、△○	2:かなり小さい	関係者に対策の指示
	×:かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×△	××	○×、△△、×△	3:中程度	職長が確認
				△×、×△	4:かなり大きい	工事担当責任者が確認
				××	5:極めて大きい	十分に訓練をした対策が必要

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対策の指示 1=関係者に対策の周知

作業項目 (誰が)	手順 主なステップ	急所 作業のポイント	リスクの洗い出し (予想されるミス・ロス)	可能性	重大性	評価点	ミス・ロス	リスクの除去・低減のための 実施すべき事項の特定 (防止対策)
土中基礎								
現地確認(全員)								
	作業箇所確認	危険ポイントの確認						
	周辺安全確認	構造物の確認						
準備作業(全員)								
	ミーティング	健康状態の確認 免許・資格等の確認						
	車両の点検・準備	車両の始業前点検、 工具の確認						機械器具の作動、ワイヤーの点検色を確認する
基礎据付け部 掘削・余剰掘り	基礎設置箇所の掘削をする	埋設ケーブルの確認	埋設ケーブルを切断する	△	△	×△	3	埋設ケーブル離隔の確認
	予定深度まで掘削する	作業指示者の合図で行う	掘削時他の作業員と接触する	×	△	×△	4	掘削範囲に立ち入らない
基礎据付け(クレーンオペ)	基礎にワイヤーを取り付ける	ワイヤーに損傷がないか 確認する	ワイヤーが破断する恐れがある	△	△	×△	3	点検されたワイヤーを使用する。点検色に注意
	クレーンで基礎を吊り上げる	作業指示者の合図で行う	基礎が作業員又は構造物に接触する	×	△	×△	4	ふらつかないように基礎下部を手で押さえながら、慎重に作業を行う
支柱建柱	基礎ブロックに支柱を建込む	作業指示者の合図で行う	建柱時に指をつめる	△	△	△△	3	建柱時は、2名作業とし1名が支柱を保持しながら行う。
	建柱後、砂・モルタル充填を行う	作業指示者の合図で行う	風等によりモルタル等の粉塵が目等に飛散する	△	○	△○	2	保護メガネの着用、風が無い時に施工する。
ガードパイプ設置	支柱と横断パイプを取付ける	締め忘れがないように する	締め忘れをするとパイプが落下する恐れがある	△	△	×△	3	ボルトの締め漏れがないか確認した後、アイマークを確実に行う
	パイプ切断を行う	サンダー使用時の確認	サンダーにて切断時、火災が発生する危険性	×	△	×△	4	消火器を常備配置し、火災時の消火作業を考慮する
後片付け(全員)								
	清掃	路面に土砂・破片等が残っている						ほうき、プロアール等を使用し、施工範囲を清掃する
		落し物・忘れ物						周囲を確認し、忘れ物がないか確認する